

中干し期間延長について（JAえちご中越）

令和6年度は、当JA管内でも中干し期間延長の実証試験（5ha程度）を行いました。
令和7年度以降、事務手続き・手順等を整理し、取り組みを進めてまいります。

1. 栽培管理の留意点

天水田など中干しができない圃場、栽培期間中の用水確保が困難な圃場、砂壤土など減水が大きい圃場は避けて選定することが重要です。

また、下記の栽培管理点に留意し、無理な中干し期間延長による品質や収量低下とならないよう注意が必要です。

（1）中干し開始と終了のタイミング

- ①目標穂数の8割の茎数を確保したら、中干しを開始する。
- ②出穂期の1か月前には中干しを終了し、急激な湛水を避け、徐々に飽水管理に移行する。

（2）栽培管理

- ①早すぎる中干し開始は茎数不足、遅すぎる中干し終了は籾数など幼穂形成に影響するので、適期中干しの実施が基本です。
- ②田面の乾き具合は、小ヒビ程度とする。大ヒビは、根の切断や保水性の悪化が懸念されるため、気象や田面の状況により中干し期間を加減する。
- ③早すぎる中干しにより除草剤の抑草期間が短くなることがあります。雑草の発生量が多い場合には、中干し終了後に後期除草剤等の利用を検討する。

2. 生産者より計測いただく内容

中干し期間延長に取り組むにあたっては、事前に日減水深を計測する必要があります。
計測実績を基にCO₂削減量が決定します。（計測なしの場合は、地域の最低値を使用）

（1）日減水深

- ①計測は、個々の取り組み実施者が管理する水田の代表的な圃場で行います。
毎年の計測は必要ありませんが、単年ごとの実測判定も可能です。
- ②計測は、入水終了時から24時間後の日減水深で行います。
 - 計測時期は、入水から田植え実施後7日以内。
 - 定規などを圃場に立て、入水終了時と24時間後を撮影した写真が必要。
- ③水田の排水性によって排出削減量は異なり、水はけが悪い圃場ほど中干し延長による排出削減量は大きくなります。

条件別排出削減量（CO₂換算）

毎年最新のデータに応じて若干の変更がある。 単位：tCO₂相当/ha/年

北陸	稲わすき込み（9割以上）	堆肥施用（1t/10a以上）	有機物無施用
排水不良（7.5mm/日未満）	5.8	4.6	0.4
日排除（7.5mm/日以上12.5mm/日未満）	4.2	3.4	0.3
4時間排除（12.5mm/日以上）	3.7	3.0	0.2

3. 生産者より提出いただくデータ等（必要情報）

- (1) 日減水深を撮影した写真。
- (2) 水稻生産実施計画書兼営農計画書の写し。
- (3) 直近2か年以上の中干し期間が分かる栽培履歴の写し。実施年度の栽培履歴の写し。
- (4) 前作の稲わらすき込み量、堆肥施用量が分かる栽培履歴の写し。(実施者のみ)
- (5) 中干し開始時と終了時の取水口、排水口を撮影した写真

①写真は、代表的な圃場で可能です。(一体的に管理されているとの考え方)

但し、基本は『品種』と『作型』毎に分類してください。

●大規模生産者、組織等で作付時期が3週間程度ずれるようであれば、別のグループとして考える。

(例) コシヒカリ作付面積：30ha、田植え日：5月1日～6月10日

この場合、田植え日の範囲が広いので、①5月1日～5月20日、

②5月21日～6月10日

の2つにグループ分けをし、それぞれに代表的な圃場を選定したうえで、写真を撮る必要があります。

4. 中干し期間の考え方

中干し期間の直近2か年以上の平均実績より前後を含み7日間以上の延長が必要です。

また、農業者の中干し期間の考え方とJクレジット制度の中干し期間の定義には、相違が見られるようです。

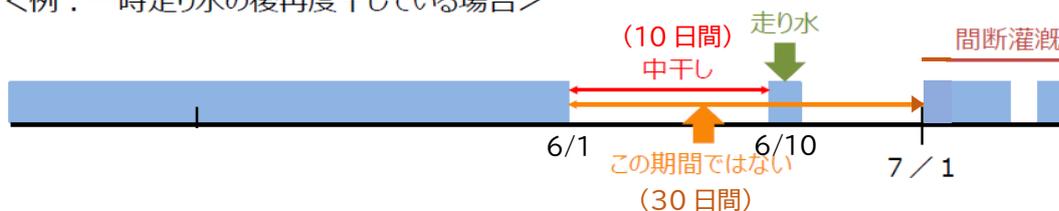
一般的に、中干しは途中の差水を含めトータルの期間として栽培履歴を記載している例が大半です。

Jクレジット制度の中干し期間の定義では、期間内に入水した時点で中干し終了の判定となり、あくまで入水を一切しない連続日数をカウントします。(雨水は入水とはしません)

本制度における中干しの期間の定義

- 出穂前に、取水口「閉」、排水口「開」の状態が継続している期間（のうち最も長い期間）を中干しと定義する。(一般的に中干しと言われる時期に行われるものをいい、播種直後等の落水期間は中干しとはしない。)

<例：一時走り水の後再度干している場合>



5. クレジットの販売

- 農林水産省の交付金と異なり、J-クレジット制度は、排出削減量に応じて創出したクレジットを販売して初めて収益が得られる。
- 仮に森林系クレジットの取引事例と同様の価格（1万円/tCO₂）で販売できた場合には、排水性が十分良い水田で、前作の稲わらを全量すき込んでいる場合（モデルケースと想定）で、1,100～4,000円/10aの収益となる。（ただし、取りまとめ事業者等に支払う手数料は考慮していない。）

※圃場の排水性（日減水深）などでCO₂排出削減量が異なります。

水はけが悪い圃場ほど、CO₂排出削減量は多くなり、クレジットの販売収益も増加します。

手数料（クレジット販売収益の20～30%程度）も運営管理者等により異なるため上記の金額は、あくまで概算金額です。

（参考）北陸地域の平均：3,700円/10a【手数料は別途】